

# 県酪だより

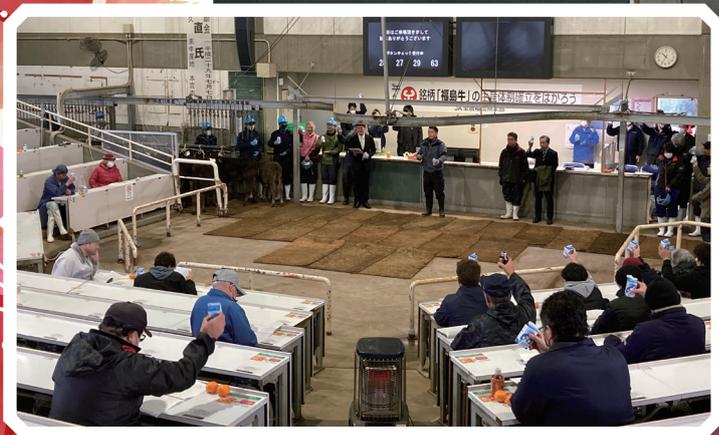
K E N R A K U D A Y O R I

2024

2

vol.314

## 令和6年 福島県酪農業協同組合乳牛市場 新春初セリ開催される!!



## TOPICS

- 福島県牛乳普及協会主催  
「ごくごく飲んで牛乳応援キャンペーン」抽選会……………②
- 福島県酪農青年研究連盟主催  
第2回酪青連酪農後継者支援研修会開催……………③

# 令和6年 福島県酪農業協同組合乳牛市場 新春初セリが開催されました!

一月十二日(金)に福島県家畜市場(本宮市)で、令和六年 福島県酪農業協同組合乳牛市場新春初セリが多数の購買者・生産者にご参加頂き、開催されました。

主催者を代表して紺野組合長より、「新型コロナウイルスを迎え、国内では第八波が過去最大の感染拡大をもたらし、世界情勢においては、ロシアのウクライナ侵攻は、世界経済に甚大な影響を及ぼし、私たち



の生活と経済活動に様々な形で表面化しています。その様な中、セリ市場においては関係者の皆様のご協力により、無事に新年を迎えることができました。また、生産者側として購買者の皆様に喜ばれる子牛作りを行い、より一層活気ある市場を目指し、今年も運営して参ります。本年も宜しくお願い致します。」と挨拶されました。また、新春初セリを祝い、購買者を代表して國分農場(有)様による乾杯のご発声を頂き、消費拡大として、『酪王牛乳』で乾杯致しました。

その後、初生牛二六一頭、初妊牛十四頭がセリで販売され、昨年と比べると、全国的に緩やかに価格上昇傾向ではありませんが、全国平均並みで取引されました。

厳しい情勢下ではありますが、明るい未来を信じ、今後とも生産者・購買者の皆様にご満足頂けるよう、より良いセリ市場を運営して参りますので、宜しくお願い致します。

## 福島県牛乳普及協会

### 「ごくごく飲んで牛乳応援キャンペーン」抽選会

福島県牛乳普及協会では令和5年12月1日から31日まで「ごくごく飲んで牛乳応援キャンペーン」を実施しておりました。キャンペーンへの応募総数は914通とたくさんの応募がありました。令和6年1月23日に「ごくごく飲んで牛乳応援キャンペーン」の抽選会が開催され、福島県牛乳普及協会会長(福島県酪農協 組合長 紺野宏)と副会長2名(酪王協同乳業(株) 鈴木伸洋会長、福島県牛乳流通改善協会会長 大木吉永氏)にて、厳正なる抽選を行いました。選ばれた100名様には、2月5日以降に乳製品詰合せセットを順次発送いたします。

皆さんからのたくさんのご応募・応援本当にありがとうございました。

福島県牛乳普及協会では、今後も牛乳・乳製品の消費拡大活動を実施してまいります。



福島県酪農青年研究連盟主催

## 第2回酪青連酪農後継者支援研修会開催



12月5日(火)に磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」にて、福島県酪農青年研究連盟主催の第2回酪青連酪農後継者支援研修会を開催しました。本研修会は、福島県による次世代酪農家育成・乳量UPチャレンジ事業を利用した研修会となっております。当日は酪青連会員、各関連団体より53名の方々が参加しました。

講師には全国酪農業協同組合連合会技術顧問の久保園弘氏をお迎えし、「自給飼料の基本と栽培 ―今こそ作ろう自給飼料―」と題し、ご講演いただきました。

昨今の酪農情勢により、自給飼料の注目度が高まる中での開催となりました。研修会では、自給飼料に関する基礎的なことから始まり、堆肥を利用するメリットや堆肥化の方法を踏まえた上で、実際の栽培方法やサイレージの作り方まで一貫した流れなど、講演いただきました。参加者の方々には、今回学んだことを有効活用し、窮状を乗り越えるための助けとしていただければと思います。

次回、第3回酪青連酪農後継者支援研修会は、2月27日(火)に「哺育管理について」をテーマに開催いたしますので、ぜひ、ご参加いただきますようお願いいたします。

## R5年度 津島支部研修会 開催!!



浜地区津島支部（今野 剛支部長）では、昨年12月14日(木)～15日(金)に支部研修会を開催いたしました。

今回の研修会は、昨年、津島支部で研修会を開催した場で、「来年は、今野支部長の新しい牛舎を見に行こう」との会員さんから要望をいただき、11月に完成した浪江町の新しい牛舎を視察いたしました。その後、「いこいの村なみえ」において懇親会を開催し、会員それぞれの近況を報告しながら、「また、来年も開催しよう」と、夜遅くまで語り合いました。

また、来年も開催しますので、ご参加いただきますようお願いいたします。

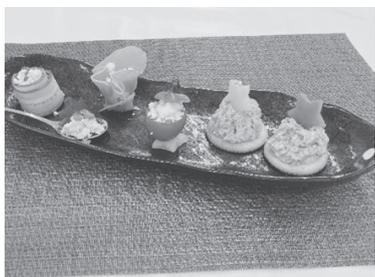
## 福島県酪女性部やまびこ会 牛乳価値向上事業開催

福島県酪女性部やまびこ会（会長 佐藤真理子）は、12月7日(木)に郡山市の郡山中央公民館調理室にて、ご家庭で簡単にチーズ作りができることを知り、レシピを一般の方に広げることを目的として『チーズ作りにチャレンジ』を開催いたしました。

低温殺菌牛乳を使ったモッツァレラチーズと酪王牛乳を使用したカッテージチーズを手作りしました。今回は12月ということもあり、クリスマスにぴったりの料理に挑戦いたしました。

手作りチーズはお酢を使ってご家庭でもお手軽に作る事ができ、実験のようで楽しく簡単に美味しいチーズを作ることが出来ました。その後、皆さんは手際よく次々と料理を完成させていきました。盛り付けも班ごとに個性があり、どの班も見たいも素敵でおいしそうな品々が並びました。

皆さんより簡単にチーズを作れることに驚いた、短時間で色々な料理を作れた、おいしかったのでうちでも作ってみたいと大変好評でした。



牛乳チーズの盛り合わせ



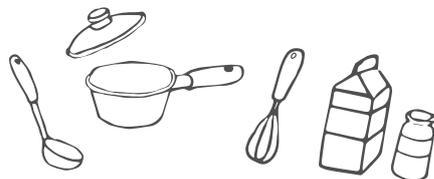
納豆と牛乳チーズ



トマトとモッツァレラチーズの絶品パスタ  
ホエーで卵とトマトのスープ



ピッツァ・マルゲリータ



## 県中やまびこ会研修旅行

県中やまびこ会（会長 佐藤真理子）では令和5年11月8日～9日、会員10名で群馬県伊香保温泉へ行って参りました。

コロナ禍により自粛を強いられて4年ぶりの開催となり、ワクワクしてバスにて出発しました。寂しい人数でしたが、バスの座席は一人一列使えるほど、ゆったりと座れて体には楽でしたが…。出発早々、お菓子やジュースなど差入れがいっぱい回ってきて、食べてお喋りして車内でも楽しく、そうしているうちに、最初の見学場所、宝徳寺「床もみじ」へ到着。紅葉の色づきは遅れていましたが、本堂内の眩く磨き上げられた28畳の床面に映り込む季節の自然美は優美で幻想的でした。

その後昼食には、群馬県の郷土料理ひもかわうどん和定食をいただき、ゆっくりした後、伊香保おもちゃと人形自動車博物館へ向かいました。昭和レトロな街並みが再現されており、昔懐かしいおもちゃや人形、懐かしの名車などが展示されておりタイムスリップ気分が味わえました。皆が見守る中、射的やスマートボールを楽しんだ方もいて、見事、おもちゃをゲット！お孫さんのお土産ができました。

1日目の見学は終わり今夜の宿、伊香保温泉へと向かいました。早めに宿に着き、皆で伊香保温泉のシンボル「石段街」へと出掛け、時間がなく一番下から365段登りきることは出来ませんでした。中段あたりを散策して宿に戻り夕食です。美味しいお膳を堪能しながら、色々な話題で盛り上がりお腹と心を満たし、温泉に入り疲れを癒しました。

2日目は宿を出発し榛名山へと向かい、榛名湖畔の高原駅から日本初の15人乗り2両連結式ロープウェイで頂上まで約3分の臨場感あふれる空中散歩を楽しみました。

次は今回の一番の目的地、全国道の駅ランキングで2年連続1位に輝いた「道の駅 川場田園プラザ」武尊山の麓に広がる自然豊かな環境で1日まるごと楽しめる！遊べる食べられる道の駅。ヨーグルト工房、チーズ工房もあり、そこでは園内より100mの近さにある牧場から毎日運ばれる新鮮な生乳が使用されているそうです。美味しいモノいっぱいのタウンサイトで、昼食も入れて2時間の滞在でしたので、時間が足りないくらいでした。お土産もいっぱい買ってバスへ戻り、最後の見学場所、大谷石の採石場跡「大谷資料館」へと向かいました。地下30mに広がる神秘的な巨大空間で大谷石採掘の歴史を感じ、神秘的な景観を楽しめました。

天候にも恵まれ充実した楽しい2日間を過ごす事ができました。

そして何より10人皆まとまっていて、気配りや優しい言葉の掛け合いもあり、微笑ましく心も癒され思い出に残る研修旅行でした。この様な旅行に参加できたのも、留守中、頑張ってくれた理解ある家族のお陰です。ありがとうございました。



伊香保おもちゃと人形自動車博物館で射的やスマートボールを楽しみました!!



宝徳寺「床もみじ」



榛名山ロープウェイ



大谷資料館

## 指導推進課コラム

2月

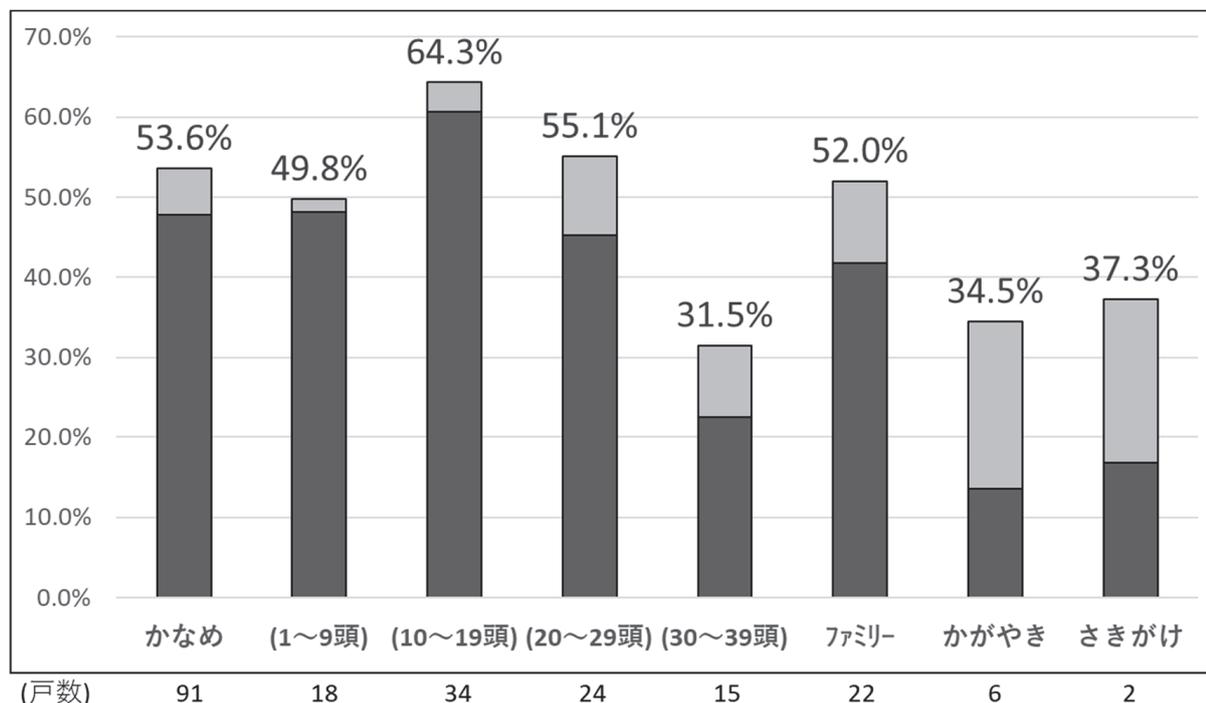
## 自給飼料調査

現在、飼料価格高騰により自給飼料の重要性が増しています。組合としても現状を把握するべく、組合員がどの程度国産の粗飼料を自給（自作または購入）しているのか調査を実施しました（令和4年に聞き取り実施）。

## ・酪農ビジョンにおける経営類型ごとの経産牛頭数

経営類型	かなめ酪農	ファミリー酪農	かがやき酪農	さきがけ酪農
経産牛飼養頭数	1～39頭	40～99頭	100～299頭	300頭以上

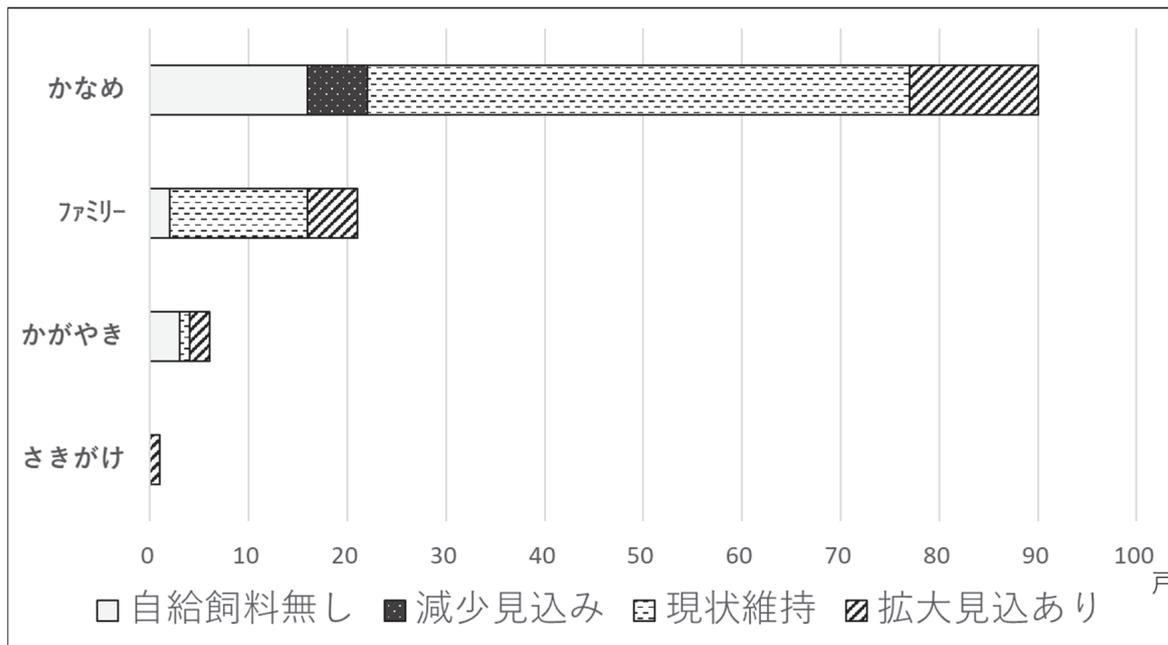
## ・経営類型ごとの平均国産粗飼料自給率（■：自作、□：購入、数字は合計%）



グラフを見ると、頭数規模が小さい農家ほど国産粗飼料の自給率は上がる傾向となっています。平均して自給率が高いかなめ酪農の中でも、10～19頭規模の農家が突出して自給率が高く、逆に30～39頭規模の農家の自給率が低い状況となっています。

また、頭数規模が大きい農家ほど、国産粗飼料のうち購入の割合が増えていく傾向にあります。かがやき酪農・さきがけ酪農に至っては、粗飼料自給のうち約半分を購入によって賄っていることが分かります。頭数規模が大きいほど、自作だけではその頭数を賄う農地面積や労働力の確保が難しくなる為と考えられます。

### ・経営類型ごとの自給飼料拡大見込み



現状で自給飼料を作付している人でも、一部拡大見込みと回答している一方で、大多数は現状維持か減少見込みと回答しており、原因として高齢化や労働力不足が多く挙げられました。また、現状で作付面積が大きい農家についても機械更新が課題となっている状況です。

自作の耕地面積を拡大するのも、新規に自給飼料を作付するのも難しい、という方が少なくないかもしれません。飼料費を抑える為には、今後は国産飼料の購入という選択肢がより重要になっていくものと考えられます。

次回はこの調査結果に基づき実施した購入国産飼料の需要量調査の結果についてご報告いたします。

## 全酪連の小窓 2月号 ～乾物摂取量をもとめるために～

寒さが一段と厳しくなってきた、ようやく白景色が見れるようになりいつもの冬を実感できるようになりました。

今月は牛の状態を観る時間が増え給与内容を再確認する良いタイミングだと思いますので、いかに牛に食べさせるかに注目した内容をお届けします。

### 給餌量と採食量の違い

大事なのは、給餌されたエサを幾ら食べたのかの「採食量」です。水分はエネルギーや栄養素にはならないので、牛が十分なエサを食べているかは乾物摂取量で判断する必要があります。

乾物摂取量が少ない牛は、生命維持に栄養を使うことに精一杯で、乳量や繁殖など生産性に悪影響を及ぼします。如何に摂取量を最大にするかが重要です。

### 乳量と繁殖の関係

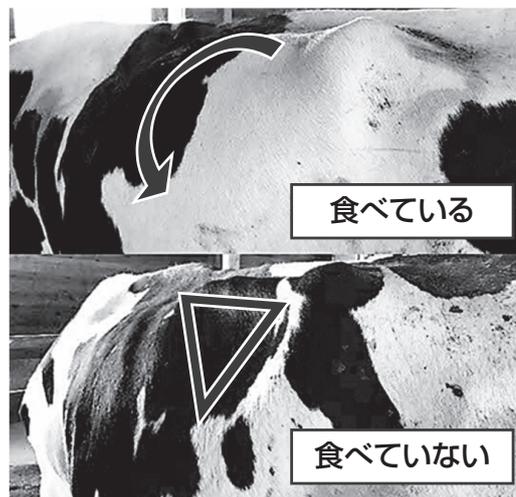
牛が乾物摂取量を評価する指標として、ルーメンフィルスコア (RFS) があります。

RFSは、牛の左側の肋骨と腰角の間に位置する「ルーメン」の膨らみで判断します。

ルーメンが大きく丸く膨らんでいる牛はエサを十分食べていると判断できます。

凹んでいる場合は、粗飼料の給与量が乾物摂取量不足を表し、自給飼料の水分の変化による乾物量の減少の可能性などがあります。

牧場内で、個体ごとのバラつきがある場合には、盗食や牛の健康状態を疑いましょう。



### 飼槽のチェックポイント

1. 飼槽へ自由に口が届く繋ぎ方がされているか
2. 舌の届く範囲が滑らかな加工がされているか
3. 飼槽はいつも掃除されており、衛生的か
4. いつも新鮮な飼料が給餌されているか
5. 餌を引き込まず、横臥を邪魔しない飼槽隔壁であるか



首コブが目立つ場合は  
ネックレールの調整が  
必要です。

この状態だと、採食だけでなく衛生的にも悪影響



ZENRAKUREN

Your Partner 全酪連

## 給餌のポイント

一番大事なことは「**不断給餌**」です。不断給餌とは、食べられる状態の餌が飼槽の届く範囲に常に置かれていることを表します。これはTMRでも分離給与でも同じです。

### ●TMRの飼料給与のポイント

- ▶粗飼料の切断長を5cm以下にする。選び食い防止や採食時間の短縮につながります。
- ▶飼料粒子を結合させるために加水する（乾物50%目安）。
- ▶残飼量は3～5%が目標、TMRは1日2回の給与がおすすめです。特に夏は二次発酵に注意が必要です。
- ▶TMR給与後2時間は30分後に餌寄せを実施する。餌が無くなる前の餌寄せは弱い牛が安心して採食できる環境を作ります。
- ▶飼槽が空になる状態は1日3時間以内に抑えましょう。



餌寄せする時は飼槽壁から20～30cm離れた位置にすると採食ロスの削減になります。

空の飼槽が続くと、次回給餌の際に一気食いが起きアシドーシスを助長します。



### ●分離給与のポイント

- ▶基本ではありますが、**かさや長さのあるものから給餌**しましょう。  
例) 乾牧草(グラスサイレージ) → デントコーン → ビートパルプ → 配合飼料など
- ※粗飼料を先に給与することでルーメンマットの形成が役立ちます。
- ▶**濃厚飼料(配合や穀類)**はなるべく1日4回以上に分けて給与しましょう。1回当たりの給与量は飼料の種類にもよりますが、3～4kgが上限です。給餌間隔は最低でも2時間以上は空けましょう。①朝搾乳前 → ②搾乳後 → ③夜搾乳前 → ④搾乳後など
- ※給餌前には粗飼料が飼槽にある、もしくは粗飼料を給餌・採食してからの給餌が前提条件です。
- ※稲WCSや藁など消化の遅い粗飼料を給与する場合は、一度に多量ではなく回数を分けて給与すると採食量が向上します。
- ※暑熱期などは粗飼料の採食量が低下します。濃厚飼料含めいつもより給餌回数を増やすことで採食量の安定化に努めましょう。

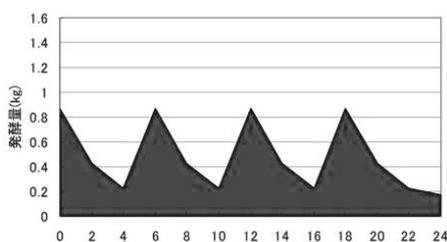


図1.濃厚飼料を1日4回給与された牛のルーメン発酵パターン

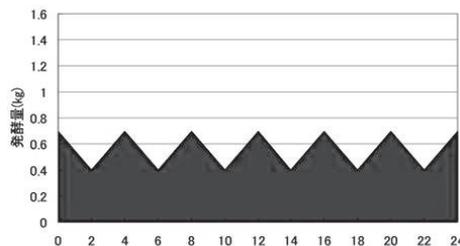


図2.TMRを給与された牛のルーメン発酵パターン

TMR給与に比べ分離給与はルーメン発酵の安定が難しいため、粗飼料の給与量(採食量)、間隔をきちんと確認することが重要です。

雪印種苗HPより引用

**給与方法や給餌メニューでご不明点ありましたら、全酪連スタッフや県酪職員へご相談ください!**

**ZENRAKUREN**



## ZENOAQ コーナー Vol.230



〒963-0196

福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1

日本全薬工業(株) 福島営業所

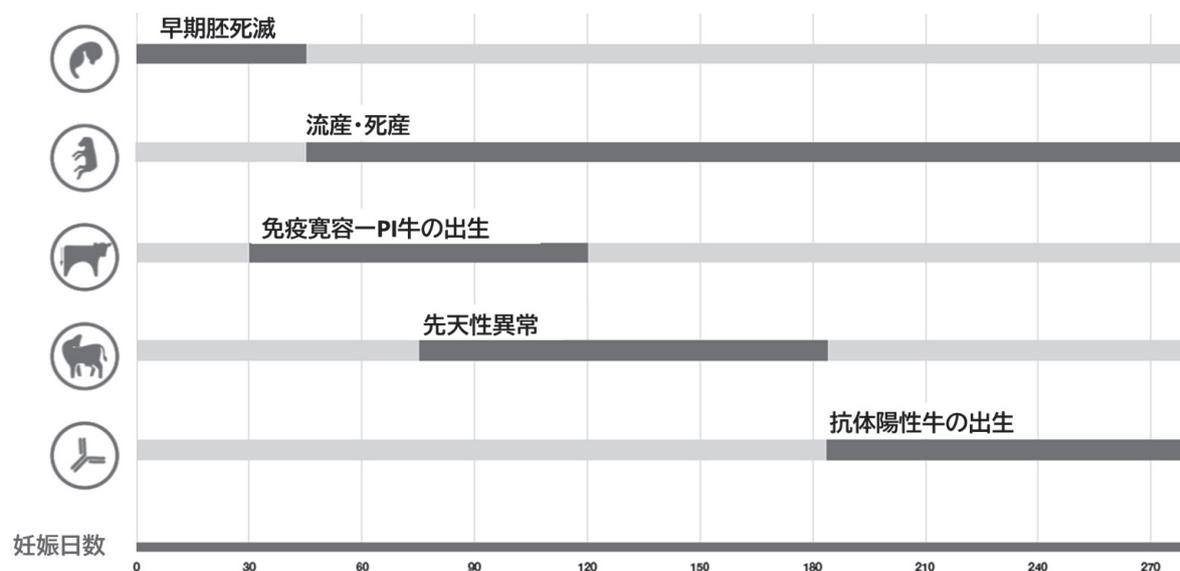
TEL0120-452-464 FAX0120-661-255

前は牛ウイルス性下痢（BVD）の経済損失やその対策を中心にお話しました。  
今回はBVDの胎子感染と検査方法についてお話しします。

## BVDの胎子感染

BVDは、ウイルス感染牛と直接接触する、あるいは直検手袋や授精器具等によって人為的に感染が生じる水平感染と、感染母牛から胎盤を介して胎子に感染する垂直感染の2つの感染様式があります。特に垂直感染のうち、胎子が免疫寛容を起こしてウイルスの持続感染（PI）を起こしてしまうことが、農場内の感染拡大において極めて重要な要因となることは前回お話したとおりです。

BVDウイルスの胎子感染の転帰は、上述の免疫寛容（PI牛の出生）以外にも早期胚死滅や流産・死産あるいは異常産など様々ですが、それはウイルスの感染時期の違いによって生じることが知られています。BVDの対策に重要な免疫寛容は胎齢30～120日頃に生じると言われていますので、PI牛の出生防止にはこの時期に衛生管理やワクチン等により、確実にウイルスから胎子を守る必要があります。



ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン(株)発表スライドより

## ■ BVDの検査について

前回、BVDの対策として「まず第一に農場内のウイルス感染状況を正確に把握すること、そしてPI牛がいた際にはそれを確実に摘発・淘汰する必要があります」とお話ししました。つまり、検査によって感染源となるPI牛を排除し、農場内の清浄な状態を作り出すことから始まります。

BVDの検査はウイルス分離法、RT-PCR法、中和試験、抗原・抗体ELISA法など様々な種類があります。それぞれの検査法に長所と短所がありますが、国内で最も広く使用されている方法がRT-PCR法と抗原ELISA法です。

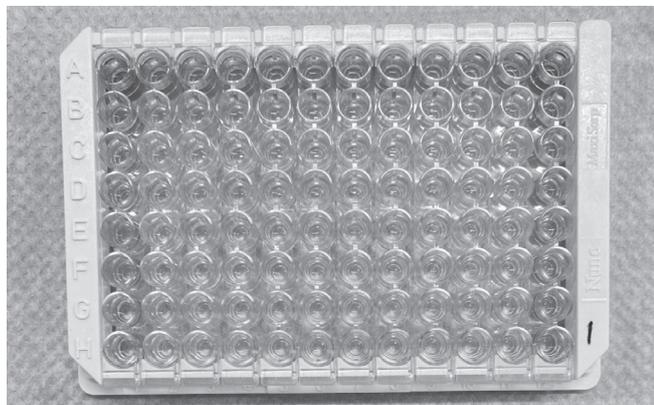
RT-PCR法はウイルスの遺伝子を増幅して検出する方法ですが、迅速かつ高感度なのでバルク乳やプール血清を用いたスクリーニング検査に適しています。一方で手技が煩雑であり多検体処理には不向きという特徴があります。



抗原ELISA法は、血清や組織中のウイルス抗原を検出する方法ですが、迅速かつ簡便であり、1検体当たりのコストも比較的安く実施することが可能なため、牛の導入時や新生子牛の検査あるいはスクリーニング後の個体検査などで広く使用されています。欠点としては、初乳給与後など血清中に高い抗体量を有している際には偽陰性を示すことがあること、また検査キットの規格の問題から、少数の検査に不向きであることなどが挙げられます。

近年では耳片を材料とした抗原ELISA法も広く用いられるようになりました。耳標を装着する際に用いるような専用のアプライヤーで小さい耳の組織を採取し、それを検査に供するのですが、採血のように特殊な技術を必要としないので採材が容易になるというメリットがあります。また、耳片組織を用いた場合、上述の初乳による移行抗体の影響を受けにくいとも言われていますので、特に新生子牛の検査で適した方法と言えます。

今回は、ワクチンについてお話しします。



令和5年度12月別支払乳価表

今月のプール乳価・補給金・集送乳調整金を含めた支払乳価は、128円81銭5厘で前年より11円62銭9厘上回る単価となりました。生乳取引価格については、令和4年11月1日から飲用向け及び発酵乳向け10円/kg（税抜）の値上げが、令和5年4月1日から学乳向け及び乳製品向け10円/kg（税抜）の値上げとなっております。また、令和5年8月1日からは飲用向け及び発酵乳向け、学乳向けが10円/kg（税抜）の値上げとなっております。さらに、令和5年12月1日取引分から乳製品向けのうち油脂分（バター向け及び生クリーム向け）の生乳取引価格について6円/kg値上げの期中改定となっております。

（東北全体12月）

用途別	販売乳量 (ト)	日量 (ト)	前年比 (%)	シェア (%)	前年度 シェア
飲用向け	24,057	776.0	95.5	64.7	62.3
加工向け	4,516	146.0	77.9	12.1	14.3
学校給食向け	1,981	64.0	92.2	5.3	5.3
発酵乳向け	5,548	179.0	89.8	14.9	15.3
生クリーム向け	965	31.0	102.1	2.6	2.3
チーズ向け	137	4.0	87.8	0.4	0.4
合計	37,203	1,200.0	92.1	100.0	100.0

備考 1) 買取乳量を除く

- 東北全体プール乳代金 4,469,286千円 単価126.889円
- 内 福島県分プール乳代金① 517,666千円 単価126.889円
- プール対象外乳代金② 91,653千円
- (学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 609,319千円 単価131.123円

項目	令和5年12月	前年同月	増減	前々年同月
プール乳価	127円124	115円354	11円770	107円695
補給金単価	1円296	1円395	-0円099	1円481
集送乳調整金単価	0円395	0円437	-0円042	0円464
合計	128円815	117円186	11円629	109円640

(注) 上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

団体別受託乳量の状況

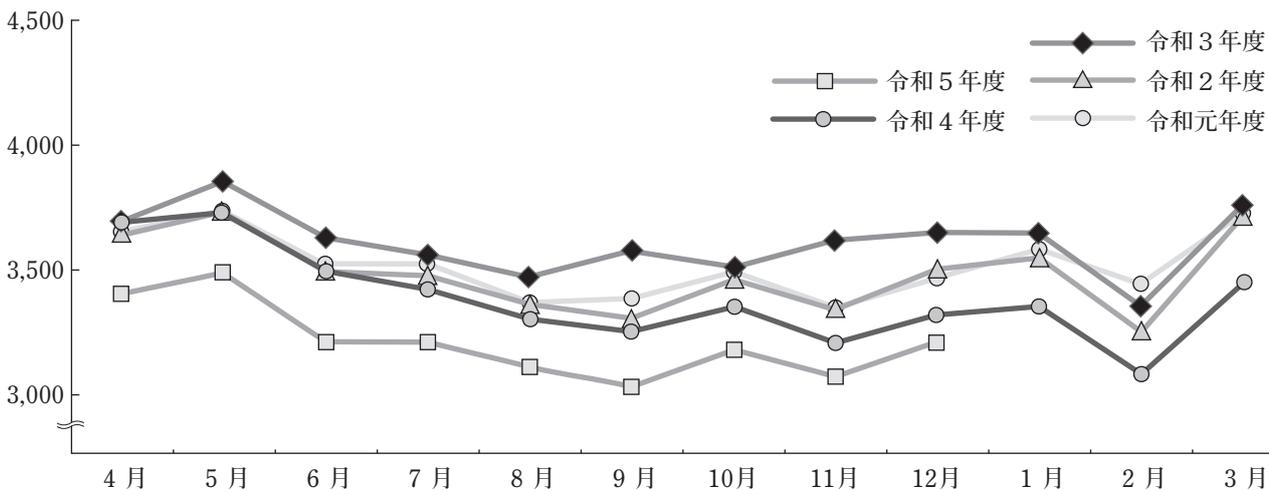
北海道：98.1%、都府県：96.6%

団体名	12月分		
	受託乳量 (ト)	日量 (ト)	前年比 (%)
県酪協	3,235	104.4	97.3
全農福島県本部	1,410	45.5	95.2
合計	4,645	149.9	96.7
東北生乳販連	37,203	1,200.1	92.1
全国	566,041	18,259.4	97.5

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	3,661	3,736	3,526	3,528	3,380	3,391	3,495	3,349	3,477	3,589	3,442	3,735	42,310
令和2年度	3,642	3,739	3,495	3,482	3,363	3,310	3,458	3,341	3,505	3,549	3,268	3,723	41,874
令和3年度	3,693	3,859	3,629	3,599	3,564	3,486	3,578	3,515	3,619	3,652	3,353	3,760	43,307
令和4年度	3,691	3,733	3,494	3,434	3,305	3,255	3,354	3,210	3,324	3,355	3,088	3,456	40,699
令和5年度	3,407	3,492	3,217	3,217	3,117	3,037	3,185	3,070	3,235				
前年比%	92.3	93.5	92.1	93.7	94.3	93.3	95.0	95.6	97.3				

単位・トン



令和5年度受託乳量の状況

令和5年12月の受託乳量は、県全体で前年比96.7%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が3,235ト、前年比97.3%（対前年同89ト減）、全農県本部は1,410ト、対前年比95.2%（対

前年同月70ト減）の実績でありました。

東北生乳販連の受託販売実績については、前年比92.1%となりました。

なお、全国の受託実績は対前年比97.5%となりました。

### 令和5年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

東北全体の用途向け販売数量は、前年比で生クリーム向けが102.1%と上回り、飲用向けが95.5%、加工向けが77.9%、学校給食向けが92.2%、発酵乳向けが89.8%、チーズ向けが87.8%と下回って推移しました。引き続き、福島県産牛乳・乳製品の消費拡大にご協力をお願い致します。

令和5年度の補給金単価については、加工原料乳生産者補給金単価が生乳1キログラム当たり前年度比43銭引き上げの「8円69銭」、集送乳調整金を同6銭引き上げの「2円65銭」、総交付対象数量については、前年度比15万トン減の「330万トン」で決定しました。補給金単価と集送乳調整金単価を合算すると、前年度比49銭上げの「11円34銭」となります。補給金単価の上げ要素としては、

配合飼料価格の高騰等、下げ要素としては搾乳牛1頭当たりの乳量の増加、乳牛償却費の減少があり、集送乳調整金の上げ要素としては、集送乳委託費と単独集送乳経費の増加、下げ要素としては加工原料乳の集乳乳量の増加が挙げられます。総交付対象数量の算定に必要な「推定乳製品向け生乳消費量」は、国民一人当たりの乳製品の消費量について過去10年間のトレンドから算出されています。

なお、今月の酪王協同乳業（郡山工場）の生乳使用量は日量平均40.7ト（前年比98.7%）で、本組合生産量の39.0%、県全体生産量の27.2%の処理量となりました。

### 年次別・月別支払乳価一覧（農協特例） ※補給金・集送乳調整金を含む

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和5年度	120.673	121.861	122.643	121.705	129.935	133.579	132.503	131.554	128.815				
令和4年度	109.973	110.973	112.420	111.282	110.437	112.872	112.484	120.128	117.186	118.965	119.149	116.514	114.365
令和3年度	110.502	111.609	113.060	111.724	110.197	112.507	112.537	112.319	109.640	110.594	110.503	109.010	111.184
令和2年度	108.959	110.268	113.694	113.625	112.257	114.269	113.489	112.845	111.265	111.109	112.190	109.876	111.986
令和元年度	107.825	109.442	110.235	109.707	109.001	110.834	113.758	112.804	110.935	111.470	112.026	108.238	110.523

### 乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

令和5年12月31日現在

地区	酪農家戸数			乳牛頭数							合計	前年度頭数	前年比	1戸当り頭数
	戸数	前年度戸数	前年比	育成	初妊	経産牛								
						乾乳妊娠	妊娠搾乳	空胎搾乳	小計					
県北	戸 26	戸 28	% 92.9	頭 317	頭 155	頭 170	頭 343	頭 794	頭 1,307	頭 1,779	頭 1,950	% 91.2	頭 68.4	
県中	48	54	88.9	234	111	188	289	751	1,228	1,573	1,701	92.5	32.8	
浜	6	7	85.7	101	33	24	63	100	187	321	335	95.8	53.5	
県南	32	36	88.9	540	230	224	527	982	1,733	2,503	2,669	93.8	78.2	
合計	112	125	89.6	1,192	529	606	1,222	2,627	4,455	6,176	6,655	92.8	55.1	

地区	月別分娩予定頭数							生乳出荷戸数	販売乳量			
	令和6年1月	令和6年2月	令和6年3月	令和6年4月	令和6年5月	令和6年6月	令和6年7月		地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
									1日当り	1日1戸当り	搾乳牛	経産牛
県北	頭 116	頭 106	頭 103	頭 86	頭 67	頭 59	頭 114	戸 22	kg 31,877	kg 1,449	kg 28.0	kg 24.4
県中	130	93	90	58	42	50	125	48	25,503	531	24.5	20.8
浜	18	11	18	6	11	17	39	6	4,616	769	28.3	24.7
県南	151	140	139	101	106	125	219	30	42,422	1,414	28.1	24.5
合計	415	350	350	251	226	251	497	106	104,418	985	27.1	23.4



組 合 の 動 き 1 月

1月12日	乳牛せり市場	1月25日	安全運転講習会（1回目）
1月17日	福島県生乳委託者委員会・幹事会	1月26日	福島県酪女性部やまびこ会
1月19日	福島県乳牛改良推進協議会 幹事会・理事会	1月29日	東北酪青女役員会
1月19日	日本酪農政治連盟福島県支部 連合会三役会	1月30日	経営検討会
1月24日	第9回理事会	1月30日	全酪連監事会・理事会
1月24日	日本酪農政治連盟福島県支部 連合会監査・常任委員会		

理 事 会

第9回 令和6年1月24日

議 案

- 第一号議案 役員改選について
- 第二号議案 役員賠償責任保険の更新について
- 第三号議案 リース契約の地位継承に関する  
覚書について

報告事項

- 1) 畜産高度化支援リース事業の貸付申請について
- 2) 第九次中期経営3カ年計画各地区座談会の  
報告について
- 3) シャインコースト株式会社の進捗状況について
- 4) 能登半島を震源とする地震の被害状況について
- 5) 今後の日程について



ほっと Milk

1月に数量限定で発売された“酪王檸檬オレ”は皆さん飲みましたか？（残念ながら限定数10万本に達したため現在は販売しておりません。）

福島銘菓の柏屋の“檸檬”とコラボ商品とのことでテレビでも、さらには一体何の味なのかとSNSなどでもすごく話題になっておりました。

そんな中、柏屋の先行発売の当日、お店の開店と同時に張り切って、一番乗りで“酪王檸檬オレ”を買いに行ってくれた酪農家さんより、いただいた写真を掲載いたします。

ぜひ、皆様から身近な写真や牛たちの写真などコメントと合わせて、「ほっと Milk」や「特派員報告」をお待ちしております！！

## 能登半島地震に伴う支援について

令和6年1月1日午後4時10分に石川県能登半島地方の深さ15キロを震源とするマグニチュード(M)7.6、最大震度7を観測する大地震が発生し、その被害は依然終息することなく甚大なものとなっております。お亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この度の震災により、停電や餌不足・断水等の影響を受け生乳出荷できず日々廃棄している酪農家への支援要請が北陸酪連から中央酪農会議を通じて指定生乳生産者団体へ入り、その中で、給水支援を目的とした小型集乳車の貸し出し並びに支援要員派遣への周知協力要請が東北・近畿・東海・北関東すべての指定団体及び会員農協等にありました。

福島県酪農協としては、東日本大震災当時、全国各地から数多くのご支援を賜り、未曾有の有事を乗り越えた経緯があることから、この度の被害に見舞われた酪農家に対する支援として、給水作業要員を延べ10日間（移動日も含む）現地へ派遣致しました。

- ・派遣職員 福島県酪農業協同組合 購買畜産課 金澤章博・日黒裕佳
- ・支援期間 令和6年1月17日(水)～21日(日)
- ・支援内容 集乳車による酪農団地内貯水槽への給水作業

- ・派遣職員 株式会社らくのう乳販 佐藤洋一・鈴木信佳
- ・支援期間 令和6年1月21日(日)～26日(金)
- ・支援内容 集乳車による酪農団地内貯水槽への給水作業

今回の支援要員派遣は1月17日～26日の対応となり、翌日、1月27日には断水が解消し全面復旧されたことから、「内灘町河北潟酪農団地」への給水支援は完了となりました。しかし、能登半島全域で見ると、すべての牧場の復旧までは長期化が見込まれていることから、再び要請があれば福島県として対応して参ります。また、併せて、義援金については、別途対応致します。



発行者 福島県酪農業協同組合 発行責任者 常務理事 佐藤 幸光

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里壇17番地 TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103 URL <http://www.milk.fukushima.jp>